

なぜ？に答える映像

自分づくりへの判断力培う

横浜市立立野小

社会科などで「ともに（大内美智子校長、児童器の数も少なかつたといふ）自分づくり」をすすめる「自分づくり」とは、自らの生き方を見詰め、いけぬ」という意識が組む横浜市立立野小学校

よく生きていこうとする 研究2年目となる本年 営みのこと。「自分ごと 度」「子どもたちの意識 から「かわり合い」の観点 を集中させることができ る「大きくパッと見せ、 問題解決の過程における、 みんなに伝えられる」な 自分の思いや考えを伝え、 機器を活用する中での ための表現方法の一つ 「ICT機器の効果を知 ることができた」と研究 昨年度、研究1年目は 主任の赤羽博明教諭。ま 数を増やしてほしい」と 「使わなければならぬ 実物投影機や電子黒板な た、教職員から「機器の



底引き網の働きについて、自分の考えを説明する児童

業で活用するためのアイデア」へと変わっているという。

小学校

のため、赤羽研究主任は「国語の漢字指導など、学校全体でさまざまな教科・領域でICT機器を活用していきたい」と話す。また、「6年生まで「ヒミツの泉民ショー」にICTのこうい使用ができる」など、学びの系統性を明らかにし、この授業で扱った商品「おさかな」について話し合ってもらおうという。

ICT機器活用いろいろ

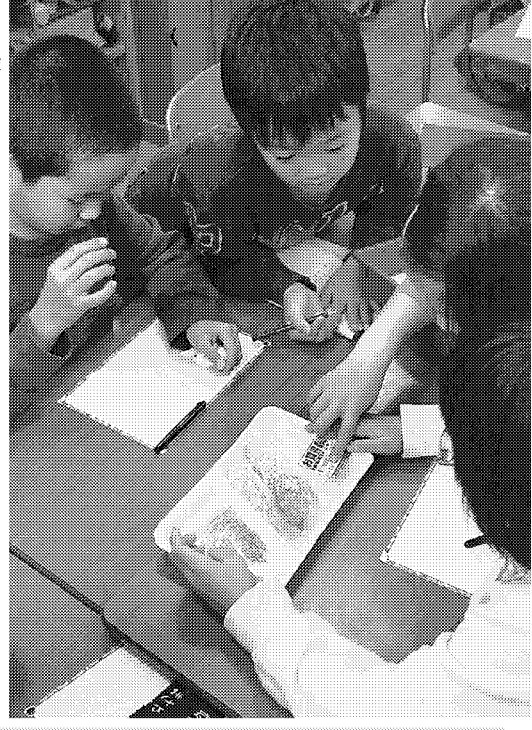
商品「おさかな」を考える 電子黒板使って授業

本年度から本格的にICT機器を活用した授業づくりに取り組む、京都教育大学附属桃山小学校（坂東忠司校長、児童436人）。

「これって何の魚？」「おさかな」という不思議な表示商品の写真を見てつぶやく子どもたち。

「不思議な商品を見つけました」など、自作のプレゼン用ソフトを使って学習が進められていく。「おさかな」という商品は、平岡教諭が福井で行われた研究会に参加した際に近くのスーパーで買ったもの。その商

品の写真を取り、この授業では実物投影機を使って「おさかな」の写真を拡大提示。教室のメインホワイトボードに事前に掲げておいた日本地図を福井県出身の学生も使って産地なども確認した。



「鯛の切り身」の表示を見て、商品チェックを行う子どもたち

京都教育大学附属桃山小

同校は9日、誰もが使える電子黒板を活用した授業について検討する授業実践研究会を行った。まず使ってみて何ができたのかを模索し、これまでの取り組みの中で使用した教材については専用フォルダに保存して共有

「産地」や「消費期限」などの商品チェックを行っている、「商品として成り立っている！」と強く主張する児童。

平岡教諭は「名前の分からない魚を買うのは不安を感じるはず。そのため、多くの子どもは商品として成立しないと考

「おさかな」という商品について、自作のプレゼン用ソフトを使って学習が進められていく。「おさかな」という商品は、平岡教諭が福井で行われた研究会に参加した際に近くのスーパーで買ったもの。その商